

平成28年度 徳島県立小松島西高等学校 総括評価表

1 学校教育目標

教育基本法・学校教育法等の趣旨に則り、本県教育基本目標に準拠し、誠実で自主・自立の精神と豊かな人間性を持ち、徳島県やわが国及び国際社会の発展に貢献できる人間を育成する。

2 本年度の重点課題

- 1 学力向上につながる指導方法・評価方法の工夫改善を行う。
- 2 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、家庭との連携を密にし、個々の生徒への支援体制の強化を図る。
- 3 社会で逞しく生きる力の醸成を図り、キャリア教育を充実し、進路の実現をより確かなものにする。
- 4 学校行事や奉仕的活動等に積極的に参加する態度を育み、地域を創生できる人材の育成を図る。
- 5 いじめのない教育環境づくりを進めるとともに、人権問題解決に向けて自主的・主体的に取り組む生徒の育成を図る。
- 6 生命尊重を基盤とする安全教育を推進し、事故防止に努めるとともに、防災対策の強化を図る。
- 7 保護者との連携をより深めるとともに、地域に開かれた学校づくりに務める。

3 自己評価

重点目標		活動計画	評価指標	自己評価
商業科	商業の各分野で必要とされる計算力・集中力を身につける。	・1年生は計算力の向上のため、年間を通して週1回の補習を実施する。 ・全商珠算・電卓実務検定に向けて積極的に取り組ませる。 ・珠算・電卓競技会に向けて計画的に取り組む。	・1年生は年間を通して補習の時間を確保する。 ・全商珠算・電卓実務検定の取得率を昨年度より上昇させる。 ・珠算・電卓競技会で入賞を果たし、四国大会に出場する。	A ・月曜の7限目に年間を通して実施。 ・3級 65%→71% 2級 36%→42% 1級 17%→15% ・珠算の部：団体県大会1位（全国大会出場） 電卓の部：個人四国大会出場 （全国高校簿記コンクール出場者を輩出）
食物科	各種検定を活用し、調理師に必要な知識・技術を確実に身につけさせる。	・専門科目の1単位35時間確保のため、3年生で週2回、1・2年生で週1回7時間目を実施する。 ・長期休業中などに特別授業や集中講義を実施する。（1～3年生） ・授業内容定着のため、小テスト・実技テスト等を実施する。（考査時の専門科目の目標60点）	・1単位につき35時間の授業時間が確保できる。 ・授業内容定着のため、小テスト・実技テスト等を実施することができる。 ・家庭科技術検定（食物調理）4～1級、食育インストラクター、技術考査の合格率100%	A ・家庭科技術検定（食物調理） 2～4級 100%合格 1級 95.7%合格 ・食育インストラクター 100%合格 ・技術考査 100%合格
生活文化科	各種検定を活用し、アパレルに関する知識・技術を確実に身につけさせる。	・進度表を作成し、教員や生徒自身が進度状況を確認するとともに技術の確実な定着・向上を図る。 ・小テストを実施し学習習慣や知識の定着を図る。	・家庭科技術検定（被服製作）4～1級について合格率85% ・色彩検定について、3級合格率50%	B ・4級100% 3級85% 2級61% 1級63% ・3級35%
福祉科	介護福祉士国家試験の合格率90%を維持する。	・国家試験出題に対応し、かつ授業時間の確保のため毎週2回7時間目を実施する。（1～3年生） ・長期休業中に集中講義を実施する。（1～3年生） ・学習内容定着を確認するため校外模擬試験を実施する。（3年生）	・1単位につき35時間の授業時間が確保できる。 ・模擬試験の平均点が国家試験の合格基準に到達することができる。 ・介護福祉士国家試験の合格率が90%となる。	B ・3年生の7月、9月、11月、12月に実施。 ・合格率77%
共通	基礎学力の定着や、専門性の向上を図る為学習習慣を身につけさせる。	・進路ガイダンスや全校集会、ホームルーム活動などを通して学習習慣の定着を促す。 ・朝のSHR等を利用し5分間学習を実施する。 ・年3回学習時間調査を実施し、動機付けを図る。	・朝の5分間学習や確認テスト等を各学年で年間100回以上実施する。 ・考査期間の学習時間調査を年3回実施し、学習時間30分以上の生徒を前年度より増加させる。	A ・100～105回実施できた。 ・昨年度66.5% → 今年度74.8%
	学校生活全般を通じて、基本的な生活習慣の確立を図る。	・全校集会などを通してあいさつや言葉遣い、身だしなみなどについて考える機会を持たせる。 ・毎朝複数教員で登校指導を行い、多遅刻者には学年団や保護者と連携し改善に努める。	・毎月1回全校集会を実施する。 ・生徒対象学校生活アンケートを年1回実施する。 ・年間遅刻者数、前年比10%以上減少。	B ・毎月実施できた。 ・欠席者数は減少しているが、遅刻者は増加している。

4 学校関係者評価（主な意見など）

- ・朝の学習について、学び直しのものに終始せず、専門教科も含めた授業の内容との結びつきを考えたものを取り入れてはどうか。
- ・遅刻者が増えているが、その生徒への取り組みとともに朝の学習についてのケアも考えてほしい。
- ・学校での阿波藍の取り組みについて、歴史も古く本藍染であることや6次産業化への実績などの情報発信により取り組んでほしい。

5 次年度への課題

- ・学校の特性上、各学科での活動が主になっており、学校全体としての問題点が見えにくくなるので各年度に重点課題の絞り込みを十分に検討する。
- ・各検定について、学年ごとではなく個々に順々に上の級に進んでいくため、同じ級でも学年や受験回数がまちまちなので、評価指標に工夫が必要である。
- ・遅刻指導を含めての朝の学習の充実と、学習内容やその後の展開・授業内容とのリンクなどについて検討する。